

食道癌患者の病状の経過に寄り添った栄養管理

～治療から最期まで～

済生会松阪総合病院 NST 看護部

渡辺亜紀子 谷美佐 伊藤理愛 中井佐奈 見並ひとみ

【はじめに】 進行食道癌においては、通過障害や化学療法の副作用としての消化器症状により、しばしば栄養障害を伴う。今回、治療と並行して患者の QOL に配慮した栄養管理を行った症例について報告する。

【症例】 58 歳男性、他院にて進行食道癌 (stage IV) と診断された。上部食道の通過障害を認めたため、CV ポート留置、PEG 造設され、治療目的に当院紹介入院となった。身長 162cm、体重 54kg、BMI19.1、Alb2.1g/dl、TLC1260/ μ l、Hb7.4g/dl と栄養障害を認めた。左骨盤骨および大腿、右背部筋肉に転移あり、体動時疼痛を認めた。貧血に対し輸血を施行し、放射線治療化学療法を開始した。入院時より通過障害と食欲低下の為経口摂取が進まず、TPN と PEG からの EN を併用した。また、内服薬による疼痛コントロールを行った。その後、通過障害の改善と共に経口摂取量が徐々に増加したため、経口+EN+維持輸液で管理した。全身状態の改善と共に EN の自己管理が可能となった為、胃瘻の指導、必要栄養量の指導を行い、経口摂取量に合わせて EN 量の自己調節ができるようになり、経口と EN 併用で一時的退院が可能となった。

【考察】 進行食道癌患者に対し早期に CV ポートと PEG を造設し、病状に合わせて、経口+TPN+EN を併用し必要栄養量を確保することが可能となり、また疼痛コントロールも可能となった。適切な栄養管理が進行がん患者の QOL 維持に寄与したと考えられた。